

## 奨学生生活を振り返って

K学院 N

2年間、奨学金を支給いただきまして誠にありがとうございました。

知識を広げるため、より深く得るために、参考書の購入など有効に利用させていただきました。それらのおかげで、知識を蓄えることができたと思います。

また、奨学金により勉強に専念できる環境が整いました。

国家試験が近づくにつれて、同級生から勉強を教えてほしいと言われることが以前よりも多くなりました。参考書を使って説明をすると、理解しづらいところでも納得してもらえるので、私もとてもうれしい気持ちになります。

人に何かを教えるには、「知っている」では十分ではありません。加えて、それに対する裏付けも必要です。教えてほしいと言われる度に、どのような質問がきてもできる限り答えることができるように、確認、下調べを行ってきました。

勉強をしていると、自分にはまだまだ知らないことが沢山あることを思い知らされます。そのような中で、さらに勉学に勤しみたいという思いが日増しに強くなりました。家族と相談した結果、就職という道ではなく医療系の大学への進学を目指すことにさせていただきました。

医療系の大学へ進学することは容易いことでないことは十分承知しております。そのための準備期間として数年かかるかもしれませんが努力していく所存です。

勉強に専念できる環境を整えていただいたこと、知識を広げる機会をいただけたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

## 奨学生生活を振り返って

C学院大 K

このたび小貫奨学金のご支援をいただきまして、誠に感謝しております。ありがとうございます。

ご支援してくださる皆様のおかげで、私はもっと良い環境で勉学に励むことができました。

私は、留学生なので、大学1年生の時から、家族と離れて生活しておりますが、両親から、高い学費・生活費の支援が厳しかったです。そのため、アルバイトもしながら、学費と生活費を賄わなければいけなくなり、勉学にあてる時間が、十分にありませんでした。しかし、今回、小貫奨学に採用していただいたことにより、生活に余裕ができ、将来自分のやりたいことを見つけるための時間を得ることができました。私は、将来、人のために働きたいと考えています。そのために、現在、両国の資格取得が優先なのだと考え、勉学の方に集中して取り組んでいます。今の充実した環境を作ってくくださる両親、友人、先生方への感謝を忘れずに、残りの大学生活を有意義なものにしていきたいと考えています。

これからは社会の立派な一員となり、早くみなさんの力になれるように、全力で務めていきたいと考えています。

最後になりますが、ご支援をくださった全ての方に心からお礼申し上げます。

## 奨学生生活を振り返って

### C学院大 K

この1年間、小貫奨学金からご支援いただき、誠にありがとうございました。小貫奨学金のおかげで、経済はもちろん、精神的にも大いに助けられています。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、楽しみにしていた大学院での勉強や研究はほとんどオンライン授業でした。しかも、その影響により、人との接触や活動の自粛が求められるので、私はアルバイトができなく、授業以外では、日本人と接して、日本語能力を高めたり、日本文化や日本事情を知る機会も少なかったものです。さらに、コロナで母国にいる両親も影響され、収入が激減している中で、仕送りが減ったことで不安が襲われ、落ち込んでしまったときに、貴財団の奨学生として採用されたことを知らされました。その瞬間、明るい希望を見たように感謝な気持ちがいっぱいでした。それは経済的な支えだけではなく、私にとって、今まで努力してきたことが認められて、今後の人生においても大きな励みだと思っています。

小貫奨学生を支援していただいたこの1年間では、コロナの状況が繰り返していて、先が見えない状況が続いている中、経済的に余裕が出たことによって、自分の考え方や気持ちを調節して、研究や生活に前向きに思考することにして、目標を設定しながら、学業においては手を抜かないよう努力してきました。今現在、修士論文作成のため調査及び研究が着実に進めています。2月1日に開催される修士論文の口述試問を全力で臨んでいます。おかげさまで、正常な生活が送れないコロナの中で、できる限り、時間を有効活用し、有意義で充実した留学生生活を過ごせたと思います。

大学院を修了後、中国に帰国すると決めました。留学生活はあとわずかです。残りの時間を大切に過ごしていきたいと思います。日本での留学生活は人生の宝物として一生忘れられません。帰国後も、私は留学生活を支援して下さった方々へ恩返しできるよう、日本で留学して積み重ねた知識と経験を活かしながら目標に向かって更に精進していき、中日友好の懸け橋になれるよう努力して行きたいと思います。

末筆ながら、小貫基金の皆様へ改めて心から感謝申し上げます。

# 『奨学生生活を振り返って』

M大学 Z

令和2年からこれまでの間、奨学金をいただきありがとうございました。

おかげさまで、アルバイトの時間を減らし時間に余裕ができたことで、様々なことに取り組むことが出来ました。

まず、3年生から4年生にかけて卒業論文に専念することが出来ました。

来日して5年経ちますが、今でもアルバイト先で聞くお客様の会話の内容は理解し難いと感じることがあり、卒業論文では「日本語における曖昧表現とベトナム語における曖昧表現の違い」について研究レポートにまとめました。大変だったのは、ベトナム語の曖昧表現についての参考文献が少なかったことです。このため、教授に都度相談しながら、自分なりに考え1年間をかけてまとめあげました。

次に、ボランティア活動に時間を注ぐことが出来ました。オンラインを利用し、実習生や来日して間もない留学生に日本語や自分が日本で生活した経験談を伝えたりしました。日本語力が不足していたために、いろいろなトラブルに遭ったことも、体験談として伝えることが出来ました。

それ以外にも、読書やアニメを見る時間を多くとり、日本の生活習慣・文化を感じる事ができ、更に理解を深められたと思います。日本という異文化を把握できるようになり、自分の成長を感じているところであります。

就職先は今のところ決まってはいませんが、日本とベトナムをつなぐ派遣業の仕事に就きたいと考えています。

夢を諦めず、この先も頑張りたいと思います。

2年間本当にありがとうございました。

## 『奨学生生活を振り返って』

M大学 R

令和2年度から小貫基金奨学金を受けさせて頂きありがとうございました。

『1880年代と1930年代の小説に見られる親の呼称』というテーマで研究を終え、卒業に必要な単位を修得し、お陰様で今年の3月に卒業できる予定でおります。

この2年間、小貫基金奨学生の名に恥じぬよう、及ばずながら学業・学生生活ともに全力を尽くしてまいりました。

振り返ってみると、至らない部分もありましたが、自分なりに有意義で実り多い学生生活を送ることが出来た2年間でした。

しかし、新型コロナウイルスの感染が拡大し、社会が一変し、生活全般が厳しくなり大変な努力をしなければならない時期となりました。

アルバイト先が休業となり、同じ会社の遠方の勤務先へ行くことができたが、シフトが短縮され、休暇を取らされることも多く、収入が激減しました。また、ビザ更新の期間と重なり、新しいアルバイト先を探すことも困難を強いられました。生活費はもちろん、学費の支払いまで影響がありました。しかし、奨学金を受けさせていただいたおかげで、学費の支払も何とか済ませることができ、大学の勉強もスムーズにできました。小貫基金で奨学金を受けていなければ、ここまでこれたかどうかわかりません。

日本の大学の教員を目指しておりましたが、新型コロナウイルスの影響が続く中での就職活動は厳しく、現在も活動中です。卒業までに何とか就職先が決まるよう引き続き頑張りますが、母国での就職も視野に入れております。

私を支えて下さった皆様へのご恩と感謝を忘れず、小貫基金奨学金を受けた者として恥ずかしくないよう、より一層精進して参りたいと思います。

経済不況と言われる中、2年間変わらず支えて下さった小貫基金の皆様には心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

## 『奨学生生活を振り返って』

M大学 B

私が日本に来て最初に通った日本語学校の1年半や、大学へ入学した2019年から生活費や学費の支払いなど経済的に苦しく、アルバイトを掛け持ちして生活してきました。長時間アルバイトをしていたため、勉強にかける時間が本当に少なく、大学に入学したことが本当によかったのかと後悔したり、今後の学費を自分で支払うことができるのか、卒業することができるのか、ずっと不安に思っていました。私の国は発展途上国なので、家族から仕送りをもらわずに生活をしていましたが、2020年に新型コロナウイルスが拡大し、私のアルバイト先の一つが休業になったり、出勤日が減ったりしました。新しいアルバイト先を探そうとしても雇ってくれる所もなく、もう国へ帰るしかないと思っていました。

その後、幸いなことに小貫基金奨学金の採用が決まり、毎月3万円の奨学金を受給できることになりました。そのおかげで、学業を諦めず自分の目的のために頑張るべきだと考えられるようになり、この2年間を無事に乗り越えることができました。アルバイト収入が少ない時に3万円の奨学金があることで、気持ちが楽になり、本当に助かりました。奨学金は学費に充てていましたが、受給できていなければ学費を払えず、国へ帰っていたところだといつも考えます。奨学金をいただいていた期間中は勉強に集中でき、英語のテストで目標点を取ることが出来ました。大学で行われたボランティア活動に参加したり、オンラインで言語の大切さや環境問題について発表したり、メンタルヘルスのために心理学の相談会へ行くことができたり、とても充実した日々を過ごすことが出来ました。これまで私を助けて下さった一般財団法人小貫基金の皆様から感謝いたします。

「奨学生生活を振り返って」

K学院 I

I

私はこの3年間多くのことを学ぶことができた  
きました。学生生活の最後が充実できたことを  
を嬉しく思います。しかしコロナ禍で学校で  
の授業や実習時間等が先輩方に比べて減って  
しまった事は大変残念でした。

そのような中で学校より小貫基金奨学金の推  
薦をいただきました。21年間このようなことは  
なく初めて挑戦してみようと思い、小論文  
や面接を経て支給していただける事となりました。  
このことは自信にもつながりました。

歯科衛生士の勉強を始めた一年生の頃は全  
てが初めての事で教科数も多く大変だったこ  
とを思い出します。2年生そして3年生と臨  
床実習も加わり現場で学ぶ大切さを実感しま  
した。知識や技術だけではなく実際に患者様  
と接することの難しさも知ることができまし  
た。心がくじけそうになったこともありまし  
たが、奨学生としての自覚や責任が自分自身

の励みになりました。本当にありがとうございました。

いました。

学校の卒業試験そして国家試験に合格する

ために毎日努力をしていきたいと思います。

そして、就職先では一日も早く一人前の歯科

衛生士になりたいと思います。

# 奨学生生活を振り返って

K学院 N

この度は、小貫基金特別給付金奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます  
昨年から引き続き、新型コロナウイルスの感染対策のため臨床実習や学内での相互実習  
が思うように行えず、苦しい一年になりました。

しかし、制限のある中での臨床実習でしたが、実際の患者様にPMTC等の施術やブラッシ  
ング指導を歯科医院の方々の指導のもと行うことができました。

学内での講義だけでは知ることのできない臨床での歯科衛生士の業務や患者様とのコミュ  
ニケーションの取り方など様々なことについて学ぶことができ、とても充実した臨床実習  
になりました。

また、貴財団によるご支援のおかげで卒業試験や国家試験に向けた日々の勉学に励むこ  
とができています。

国家試験に無事合格し、私が理想とする患者様一人ひとりに寄り添うことのできる歯科衛  
生士になるため、日々精進して参ります。

小貫基金の皆様にはこの場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

この度は、本当にありがとうございました。

# 奨学生生活を振り返って

この度は、奨学金のご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。

私が北原学院千葉歯科衛生専門学校に進学してから数年では、自身を取り巻く環境が劇変しました。両親の離婚により家庭環境は大きく変化し、母の経済的負担が増す生活となりました。さらに新型コロナウイルスが引き起こした未曾有の災禍によって、社会情勢も大きく変わり、人々の生活が一変したことでアルバイトが十分に出来ず、学費を補填す

る事が難しい状況になりました。そんな折、奨学金をご支援いただいた事で精神的にも余裕が生まれ、より集中して勉学に取り組むことが出来ました。経済的負担が減ることによって、母と過ごす時間も増えました。

これもひとえにご支援くださった皆様のおかげでございます。これからも皆様と母への感謝を忘れずに、理想とする歯科衛生士になり社会に貢献するべく、まずは国家資格の取得を目指して、より一層勉学に励めて参ります。

す。  
本当にありがとうございました。

奨学生生活を振り返って

県立K高校 S

私がこの三年間で最も力を入れてきたことは勉強です。日頃から勉強の習慣をつけ、コツコツと積み重ねてきました。去年、休校の間は自分で勉強を進めなくてはならず大変でした。しかし、勉強法を見直す良い機会だと思えます。定期テストや受験勉強の役に立っていることばかりで、その甲斐もあって第一志望の大学から推薦を頂くことができました。

また所属していた美術部では展示会やワークショップにも参加しました。作品の制作は長時間にわたり、上手くいかないことも多くありました。諦めずに続けることで集中力と忍耐力を身につけることができました。また、展示会などで色々な人の作品を鑑賞すること、自分の視野を広げること、学びました。

学校行事は新型コロナウイルスの影響もあ

り、いずれも延期や縮小の措置が取られて開  
催されたり中止されたりしてしまいました。  
しかし、「規制がある中でどうしたら多くの  
人が楽しめるか」を考えることはとても勉強  
になりました。クラスメイトとも会話を重ね  
る中で交流を深めることができ、良い関係を  
築くことができました。

この三年間の経験は私の人生に欠かせない  
ものだったと思います。この生活を支えて下  
さったこと、とても感謝しています。この経  
験を活かして大学生生活を送り、さらなる経験  
と知識を蓄えていきたいと思っ  
ています。そして将来はいずれかの方法で人を支えられる  
人になりたいです。

高校入学式直前に癌で闘病中であった父が2019年に亡くなり、合格の喜びに浸る間もなく、葬儀での母の手伝いと、入学に伴う準備と高校生活への不安を抱えた入学式でした。

担任の先生の御助力で小貫基金を紹介頂き、面接を受けて奨学金を頂ける事で得た安心と希望を、僕は生涯忘れる事はありません。

活動した弓道部では、的に当たらない期間が続いて精神的に参ってしまうことが何度もありましたが、試行錯誤してそれを乗り越えるという経験は成長に繋がりました。

高校2年生からコロナ禍が始まり、やがて受験勉強が始まりました。

未来への不安と焦燥の中でも奨学金の存在に励まされました。

興味を持ち勉強している生物科学。

複雑ながら精巧に組み合わさった生命現象について学ぶのは、非常に興味深いと感じました。

奨学金で得た勉強の機会を活かして、志望大学に向かって日々受験勉強に励んでいます。

ご支援頂いた全ての人々と小貫基金様に心から感謝の気持ちとお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

2022年1月

Y高校 I

### 奨学生生活を振り返って

高校3年間、奨学生として採用していただいたおかげで、経済的なことを気にすることなく、学業やクラブ活動に取り組むことができました。そして大学進学を目指して受験勉強に集中することができました。

私は剣道部で副部長を務め、県大会上位入賞を目指して活動していました。部員と積極的に会話をし、練習に打ち込むことで、千葉県高等学校総合体育大会剣道大会男子団体の部で3位の成績を収めることができました。剣道を通して、仲間と一つの目標に向かって協力することの大切さを学び、目標を達成する充実感を味わうことができました。

また、学校で定期的に行われている学部学科ガイダンスや大学模擬講義を積極的に受講しました。自分の興味のある学問、職業を見つけた上で、目的意識を持って勉強に励みました。

高校3年間で振り返って一番強く感じていることは、私はたくさんの人に支えてもらっていたということです。日頃から生活面と技術面の両面から指導してくれた剣道部の顧問の先生、何度も私の受験の相談を熱心に聞いてくれた担任の先生、朝早くから送迎してくれたりお弁当を作ってくれたりした両親、共に勉強方法を模索して教え合い仲良くしてくれた同じクラスの友人、互いにライバル意識を持ち切磋琢磨した剣道部の部員など、たくさんの人にお世話になりました。私の高校での3年間でとても充実したものになったのは、たくさんの人にお世話になり、支えてもらったからだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。高校卒業後、決まった進路先でも感謝の気持ちを忘れずに努力していこうと思います。

(658字)